

平成 20 年度 第 3 回八戸市地域公共交通会議資料

幹線軸路線（八戸駅線共同運行化） フォローアップ調査について

目 次

1.八戸駅線共同運行の概要	1
2.八戸駅線共同運行化に対する評価	2

平成 21 年 1 月 28 日

八戸市地域公共交通会議

1. 八戸駅線共同運行の概要

八戸市交通部（市営バス）と南部バス株式会社は、平成 19 年 3 月に策定した八戸市公共交通再生プランに基づく取り組みの第一歩として八戸駅と中心街を結ぶ「八戸駅線（根城大橋経由・田面木経由）」の共同運行化を実施した。

八戸駅 中心街は 10 分間隔で運行（平日昼間）

- ・ 田面木・司法センター前経由と、根城大橋経由を 20 分間隔で交互に運行
- ・ 早朝・夕刻・夜間は八戸駅の列車時刻に合わせて運行

八戸駅 中心街間で「市営バス、南部バス共通定期券」を販売

- ・ 例えば、田面木 司法センター前など、八戸駅 三日町（八日町）間で「共通定期券」を販売

中心街方面は八戸駅「1 番のりば」から発車に統一

- ・ 内舟渡経由は「2 番のりば」からの発車

八戸駅線(根城大橋経由・田面木経由)時刻表

*詳しい時刻は P38～41（平日）、P42～45（土曜日）、P110～121（日曜・祝日）、八戸駅前のりば案内はP21にあります。

八戸駅発時刻 中心街（三日町・八日町）方面

時	平 日		土 曜 日 ・ 日 祝 日	
	根城大橋経由	田面木経由	根城大橋経由	田面木経由
6		50		
7	00 ★15 20 ★30 40	10 30 45 55	00 20 40	30 50
8	00 05 20 40	10 30 55 50	00 20 40	10 30 30 50
9～17	毎時 00・20・40分発	毎時 10・30・50分発	毎時 00・20・40分発	毎時 10・30分発
18	00 ☆10 30	15 45	00 30	15 45
19	05 20	15 55	05 30	15 55
20	00 35	15 45	00 35	15 45
21	10	20	10	20
22	00 25	10	00 25	10

★印：上二ツ家行 ☆印：司法センター前経由

六日町発時刻 八戸駅方面

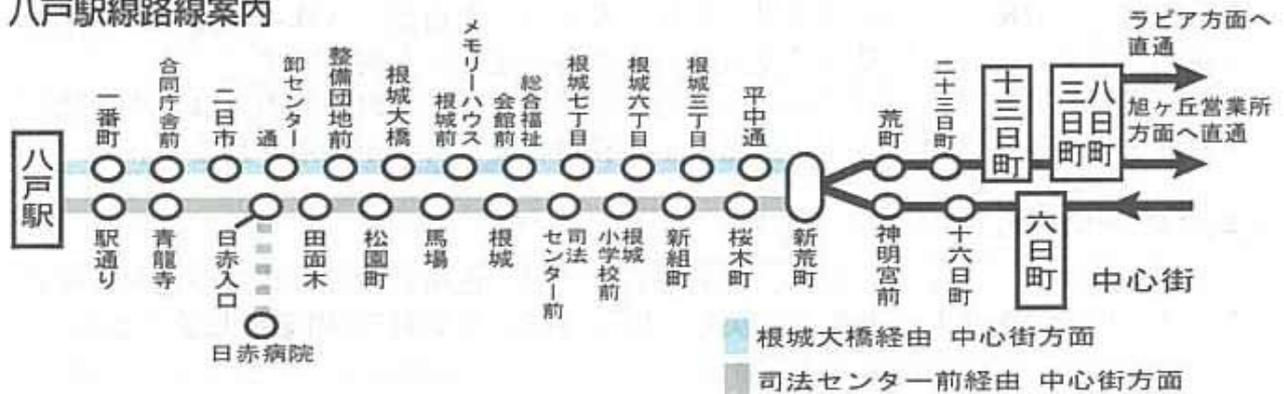
時	平 日		土 曜 日 ・ 日 祝 日	
	根城大橋経由	田面木経由	根城大橋経由	田面木経由
6	20 40	5 25 55	20 40	55
7	05 ◆17 25 ◆45	15 35 55	05 25 ◆45	25 55
8～16	毎時 (05・25・45分発)(注)	毎時 15・35・55分発	毎時 05・25・45分発	毎時 15・35分発
17	05 20 25 45	15 35 55	05 25 45	15 35 55
18	05 25 45	15 35 55	05 25 45	15 35 55
19～20	05 35	20 50	05 35	20 50
21	20 55	10 45	20 55	10 45

◆印：十六日町発時刻(九日町は通り過ぎる) (注)平日10時台のみ ◆印(十六日町発)25・45と異なります。



八戸駅 1 番バス停の状況 H20.11

八戸駅線路線案内



出典：H20.4.1 八戸市営バス時刻表

2. 八戸駅線共同運行化に対する評価

2.1. 事業者からの評価

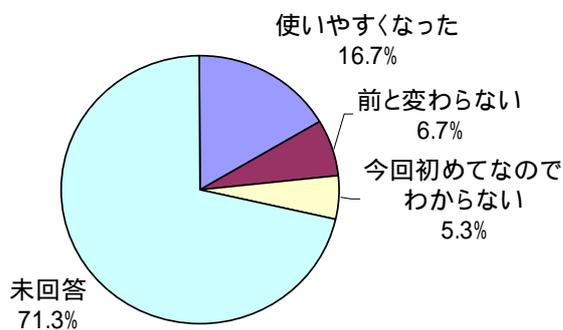
	共同運行化実施についての事業者としての評価	八戸駅前のバス乗場の方面別再編についての評価
八戸市交通部	<p>(事業者の意見)</p> <p>バス事業者としては、共同運行を実施したことで、ダイヤを削減し、効率的な運行が可能となり、効果があった。</p> <p>また、長年の懸案だった事業者間の運行本数・運行時間の調整が可能になった事により、その他の競合路線の運行調整も随時実施しており、市内のバス路線としては、数年前よりは、効率的になってきていると思われる。</p> <p>今後の課題としては、利用状況に伴う、運行本数・運行時間の見直しを検討する行政、事業者間の協議の場の継続が重要と思われる。</p> <p>(利用者の声)</p> <ul style="list-style-type: none"> 共通定期券を利用することにより、時間を気にせず乗車できるので、便利になった。特に、司法センター経由については、利便性が上がった。 運行間隔が10分(各20分)なので、時間を気にせずに停留所に行く事ができる。 	<p>(事業者の意見)</p> <p>乗り場を方面別に統一した事は、利用者にとっては、利用しやすくなり、便利になったと思われる。</p> <p>なお、運行当初の4月は、1番乗り場で時間調整をしているバスが時々あったため、乗務員からの苦情があったが、現在は解決されている。</p> <p>今後の課題としては、現在、停留所ポールを事業者ごとに所有しているが、停留所ポールの管理(破損、老朽化に伴う交換、時刻表の交換等)について、協議する必要がある。</p> <p>(利用者の声)</p> <ul style="list-style-type: none"> 乗り場が、統一されて解りやすくなった。 どちらのバスが、先に発車するか、乗り場を行ったり来たりすることがなくなり、便利になった。
南部バス	<p>細かい分析はしていないが、減便等による収入減を見込んでいたが思ったより収入の落ち込みが無かったと思う。共同運行化により利用者にとっては「利用しやすく便利」となり、事業者にとっては運行の効率化が図られたのではないと思われる。</p> <p>(利用者の声)</p> <p>「今の寒い時期はバスを待つのが辛いですが、等間隔運行で利用しやすくなった。」とのこと。</p>	<p>運行当初、運行の遅れ等により、出発時バス停に乗り入る事業者が前後する場面があった。</p> <p>利用者・乗務員からの苦情は届いていない。</p>
十和田観光電鉄	<p>発車時刻が平準化されたので、お客様の利用しやすさは格段に向上したと思います。</p> <p>問い合わせにも対応が容易になりました。</p>	<p>行き先方面別に乗り場が設定されたことについて、現段階ではお客様・乗務員から悪い点を指摘されたことはありません。</p> <p>実施してから約1年が経とうとしておりますが、このまま定着していくと思います。</p> <p>八戸駅東口のバスプール内への自家用車の流入、駐停車には閉口しておりますが...</p>

2.2. 利用者からの評価

(1) 八戸駅利用者（H20.12.10 実施 N = 150 人）の評価

（設問）等間隔運行をし、また「1 番のりば」から発車しているがどの様を感じるか。
未回答が多いが、「等間隔運行について使いやすくなった」が一番多くなっている。

等間隔運行について



（設問）自由意見の中の等間隔運行に関する記述

特に、昼の 20 分間隔の運行時間帯等については、わかりやすい、との意見がある一方、鉄道との乗継ぎに配慮し、列車の到着を受けてバスを発車させて欲しいとの回答が数件見られた。

自由意見の中の関連記述例
市内から八戸駅へのバスについて。電車の発着時刻を考慮した上で、バスの時間を決めてもらいたい。10分、30分、50分にほぼ統一するのはわかりやすいが、不便。
八戸駅発のバスダイヤは列車の到着時間を充分考慮したものにしていきたい。八戸駅行きのバスダイヤも列車の発時間を充分考慮したものにしていきたい。あまりリンクしておらず、わずかのところで乗れず、次のバス(列車)となるが多々ある。
電車着時間の5分後にバス出発して欲しいです

(2) 八戸駅沿線利用者の評価 (市民アンケートの中から八戸駅線沿線 100 人を抽出*)

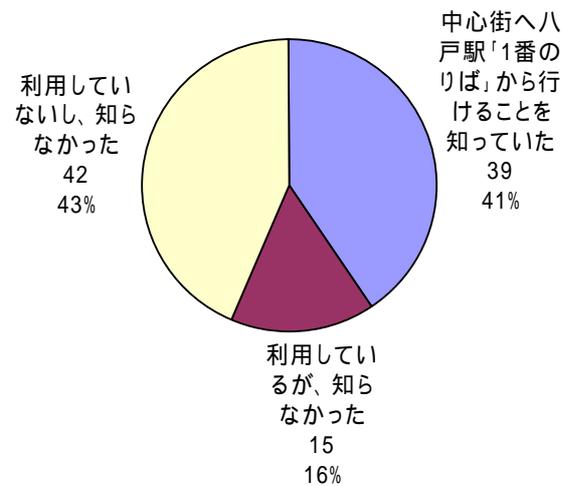
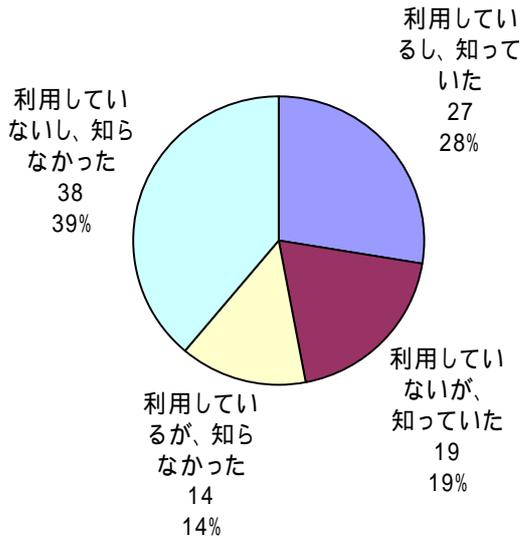
* 現在集計途中のため、100 人を抜粋

(設問) 等間隔運行を知っていたか。また、乗り場の統一を知っていたか。

八戸駅線沿線では、等間隔運行については市民の約半分弱、のりばの統一については 41% の人が知っていた。

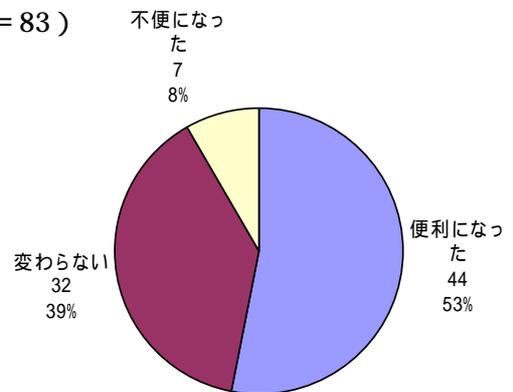
・ 等間隔運行 (N = 98)

・ 八戸駅線ののりばの統一 (N = 96)



(設問) 共同運行により便利になりましたか? (N = 83)

過半数が便利になったと答えている。



共同運行化後、バス利用に関して変化がありますか? (N=100 複数回答)

回答者の内の 2 割弱が「バスに乗る回数が増えた」との回答である。

